

想

「1学級1新聞」山形県の施策から

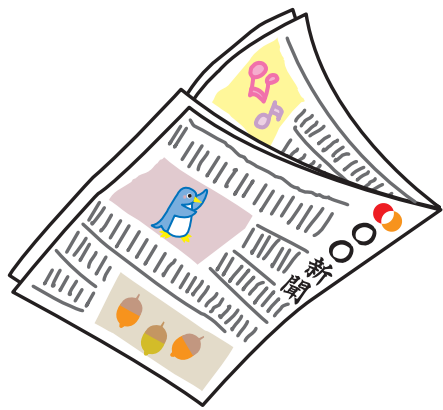
町長 三浦正隆



連休で行楽にお出かけの方も多
いと思います。くれぐれも交通事
故にはお気をつけ願います。

さて、町では様々な施策を実施
していますが、新規事業を企画・
立案する際に考慮していること
は、第一に町民の皆様からの要望
が多いこと、次に職員からの企画
提案や県内外の他市町村の事業を
参考にするという順番でやって来
ました。

他市町村の事業を参考にする
際、とりわけ私が注目しているの



はお隣の山形県です。山形県は隣
県でありながら本県とのアクセス
が悪く、とりわけ能代山本からは
遠いという感じがしますが、山形
の施策は参考になるところが多い
と思っています。

町が取り組んでいるクアオルト
事業も平成25年に上市市を視察し
て事業化できないか検討を始めた
ものです。私にとって山形県はそ
のような存在ですが、今年また県
をあげて興味ある事業を始めるよ
うです。

それは「1学級1新聞」事業と
言い、県内31市町村が小学校5、
6年生と中学校の全クラスに山形
新聞を配備し、その新聞購入費の
半額を県が補助するものです。山
形新聞社でも記者を学校に派遣し
て新聞の読み方を伝授し、新聞に
親しむ環境作りを支援します。

その目指すところは地方創生の
実現です。人口減少、とりわけ進
学や就職による東京圏など都市部

への若者流出は必ずしも喫緊の課
題です。秋田県内でも高校卒業生
のうち進学や就職で県外に転出し
た人は半分以上ではないでしょう
か。県内の大学などの卒業生のう
ち県外に就職した人も恐らく相当
数に上ると思います。

このように、人口の社会減をい
かに減らすか、そして地元定着率
や地元への回帰率をいかにアップ
させるかがとても重要です。山形
県ではそのためには郷土愛の醸成
が欠かせないと考えました。

郷土愛は一時的な教育や試みで
育つものではなく、地道な取り組
みで培われるという認識が根底に
あります。日々、地域ニュースや
話題に触れる中で地元への関心が
高まり、郷土への愛着も湧いてく
る。その結果として地元に残る学
生が増え、仮に県外に進学しても
就職は県内企業という確率が高ま
るのではないかと考えました。首
都圏に就職しても地元への思いが

胸にあれば県内へ転職の可能性も
出てくるのではないかと。

新聞と学力向上の関係はOEC
Dなどの公的機関の調査でも裏付
けられています。新聞を読んでき
る児童生徒ほど全国的に成績が良
いとの分析もあります。

また、昨今は教育格差も見逃せ
ません。本町でもこの度「子供の
明るい未来づくりプラン」を策定
しましたが、経済的理由から教育
機会が得られないなど格差が社会
問題化しており、自宅で新聞を購
読できない世帯の子供も増えてい
るようです。児童生徒が平等に読
めるよう機会の均等化を図る必要
があります。

郷土愛を育て、学力を高め、経
済事情による教育格差を是正す
る。山形県の取り組みはその後押
しになるだろうと思います。春の
温かさのように子供達に優しい三
種町でありたいものです。今月も
健康でお元気で過ごして下さい。